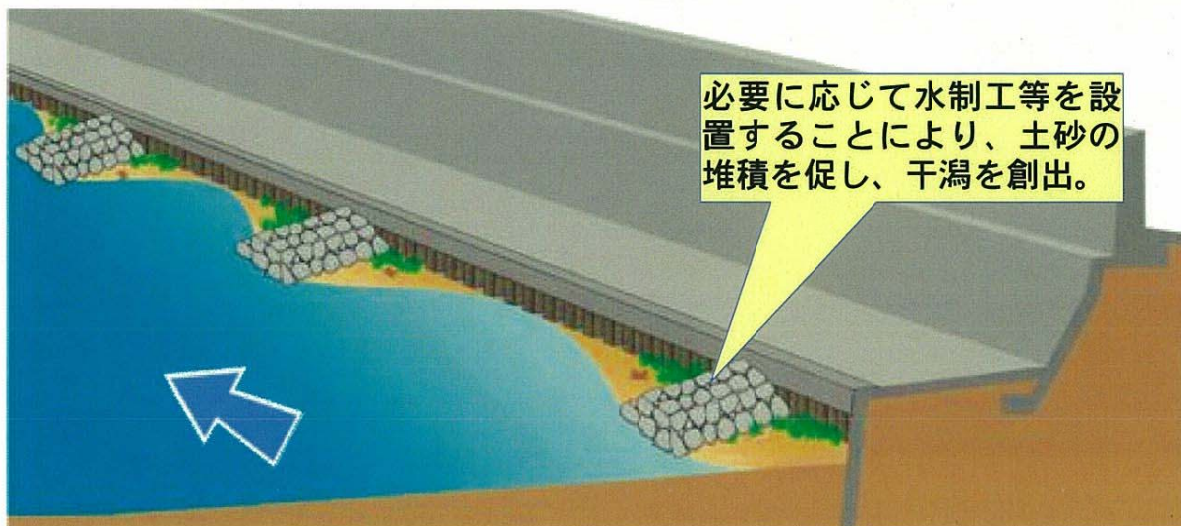


IV 事業による影響と保全・再生方策等

① 下流部築堤区間 (河口～JR東海道線橋梁下流)

【保全・再生方策】干潟の創出






IV 事業による影響と保全・再生方策等

① 下流部築堤区間 (河口～JR東海道線橋梁下流)

【区間の総合評価】

- 汽水域の拡大や干潟の創出により、自然環境は向上し、「2つの原則」を守ることができる。
- この区間の持つ課題についても、移動の連続性確保や生息場所の創出により改善される。

原則 1	原則 2	配慮すべき
		
【向上】	【向上】	【向上】

IV 事業による影響と保全・再生方策等

② 下流部掘込区間 (生瀬大橋～名塩川合流点)

【区間の現状】

- 武庫川峡谷部直下の市街地を流れる区間
- 峡谷の出口付近に自然性の高い礫河原が存在
- 水当たりの強い岩場には、局所的にサツキ等の貴重な岩上植物が生育



IV 事業による影響と保全・再生方策等

② 下流部掘込区間 (生瀬大橋～名塩川合流点)

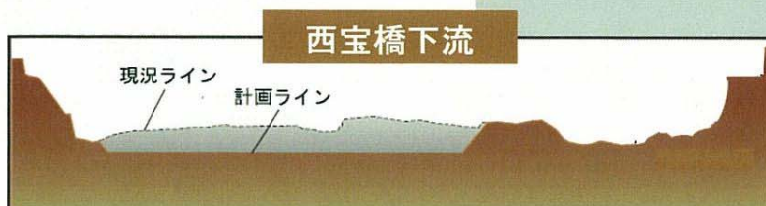
【事業計画】

区間長: 2.45km

(生瀬大橋～名塩川合流点)

- 川底の掘り下げ
- 川幅の拡大

など



IV 事業による影響と保全・再生方策等

②下流部掘込区間(生瀬大橋～名塩川合流点)

【現在の河川環境】

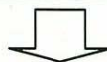
原則1	魚類:アカザ、アブラボテ等(6種)
	底生動物:キイロサナエ等(7種)
	植物:サツキ、アオヤギバナ等(4種)
	爬虫類:ニホンイシガメ(1種)
	鳥類:イカルチドリ、イソシギ等(11種)
	昆虫類:アイヌハンミョウ等(4種)
原則2	4-1 攪乱で維持される礫原草原(2ユニット)
	4-2 攪乱で維持される溪谷の河辺・岩上植物群落(3ユニット)
	5-2 広がりのあるオギ群集(1ユニット)
配慮を検討すべき「生物の生活空間」	3-2 礫原草原を確保すべき場所
	4-1 外来植物群落が侵入している場所
	4-2 外来性魚類が侵入している場所

IV 事業による影響と保全・再生方策等

②下流部掘込区間(生瀬大橋～名塩川合流点)

【影響評価・原則1】

(魚) アカザ、アブラボテ等 (底) キイロサナエ等 (爬) ニホンイシガメ	施工時には減少またはほぼ消失。生息環境である瀬・淵の再生により回復が予想される。	➡
(植) アオヤギバナ、サツキ	改変区域外であるため影響は小さい。	➡
(鳥) イカルチドリ、イソシギ等	生息環境となる砂州は一旦消失。生息環境の再生と餌となる生物の回復により回復が期待される。	➡
(昆) アイヌハンミョウ等	施工時には減少。生息環境である礫河原等の再生により回復が予想される。	➡




生息環境となる礫河原や瀬・淵の再生が必要

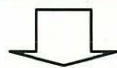
IV 事業による影響と保全・再生方策等

②下流部掘込区間(生瀬大橋～名塩川合流点)

【影響評価・原則2】

4-1 攪乱で維持される礫原草原(現状:2ユニット)

検討の視点	礫河原に特有な植生が生育する場の再生	
総量維持の 評価指標	①水理諸量(平均年最大流量時の川幅水深比、無次元掃流力、河床勾配、河床形態) ②水面からの比高	
評価結果	①一部の水理諸量の変化率が目標値を超えるため、礫河原の再生には長期間を要する可能性がある。 ②現状より比高は小さくなり、植生が変化する。	




礫河原の速やかな再生を促進するため、現況河床形状のスライドダウン等により多様な生息場を確保する。

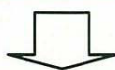
IV 事業による影響と保全・再生方策等

②下流部掘込区間(生瀬大橋～名塩川合流点)

【影響評価・原則2】

4-2 攪乱で維持される溪谷の河辺・岩上植物群落(現状:3ユニット)

検討の視点	岩盤部に局所的に岩上植物が分布する場の保全・再生	
総量維持の 評価指標	①サツキ生育地点の流速 ②サツキの冠水時間	
評価結果	①、②とも現状からの変化率が小さいことから、流れの変化による影響は小さい。	



影響は小さいと予測されるが、事業実施後、継続的なモニタリングを実施する。